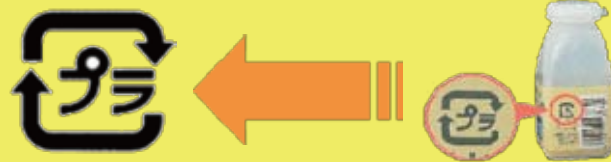


プラマーク製品(プラスチック製容器包装)の分別について

市では、平成27年1月からプラマーク製品(プラスチック製容器包装)を分別収集し、リサイクルしています。プラスチック製容器包装をリサイクルすることにより、プラスチックの原料である石油の消費量を節減でき、また、ごみの減量にもなります。

プラスチック製容器包装ごみとは？

プラスチックやビニール製のもので、商品を入れたもの(容器)や包んだもの(包装)で、商品が消費されたり、分離されたりした時に不要となるものをいいます。



このマークが目印です！

※プラスチックやビニール製であっても、商品を入れたり包んだりしていないもの(例えば洗面器や歯ブラシ・ビデオテープ・CD・スポンジ・文房具など)は、燃やさないごみに出してください。

カップ・パック類	キャップ・ラベル類	チューブ類
カップ麺、プリン、ヨーグルトなどのカップ、弁当・納豆・卵・豆腐、果物などのパックなど	ペットボトル・化粧品などのキャップ、ラベルなど	マヨネーズ・ケチャップ、ねりわさび、洗顔料、歯磨き、接着剤などのチューブ類
ボトル類	発泡トレイ・スチロール類	レジ袋・ラップ・ラベル類
食用油・ソース・乳酸飲料・洗剤・シャンプー・化粧品などの容器	肉、魚、惣菜、菓子などのトレイ、化粧品・家電製品などの梱包用スチロールなど	レジ袋、衣料品や文具などの袋、米・パン・めん類・冷凍食品・野菜・菓子などの袋や包み

プラスチック製容器包装ごみの出し方Q&A

Q：サラダ油、マヨネーズ・ケチャップなどの容器はどこまできれいにするのか？

A：油類のボトルなど、簡単に中を洗えるものは軽く水洗いし出してください。簡単な洗浄で汚れが落ちないものは、「燃やすごみ」の日に出してください。

Q：肉や魚、惣菜などのトレイにかかっているラップに、商品表示の紙シールが貼られていますが、はがす必要はあるのか？

A：簡単にはがせるものは、はがしていただき、無理なものはそのまま結構です。また、洗剤などのボトル類についても同様です。

Q：白色トレイなど、スーパーなどで自主的に回収しているところがあるが、その場合どちらに出せばいいのか？

A：トレイなどをスーパーなどで店頭回収している場合は、出しやすい方に出してください。(店頭回収分は通常、市と別ルートでリサイクルされます。) ※プラスチック以外ですが牛乳パックなども同様です。

Q：プラスチック製容器包装と思われるものでも、プラマークの表示がない場合はどうすればいいのですか？

A：プラマークの表示は、商品のラベルやパッケージに通常付いていますが、表示がないものもあります。その場合は、燃やさないごみとして出してください。

プラスチック製容器包装分別の3つのお願い

●その1(きれいな状態で…)

せっかく分別しても、汚れていると資源としてリサイクルできません。出すときは必ず中身を使い切り、汚れているものは軽く水洗いし出してください。

●その2((無色)透明・白色半透明の袋で…)

プラスチック製容器包装も可燃、不燃ごみなどと同様に(無色)透明・白色半透明の袋に入れて出してください。

●その3(二重袋にしないで…)

ごみを小分けに入れた状態で、さらに袋に入れて出されますと、処理場での作業が手間取ります。プラマーク製品はそのままの状態直接袋に入れてください。



悪い例



良い例

ご協力をお願いしますネ!!



じょうりんちゃん
©城陽市

限りある資源を大切に使うため、ご理解とご協力を！

ペットの飼い方考えよう!

知らないうちにまわりの迷惑になっていませんか?

猫を飼っている皆さんへ!

・屋内飼育に努めましょう

猫が屋外で自由にいると、交通事故、病気の感染、猫同士のけんか等、危険に満ちています。また、飼い主の目の届かない所でふんや尿、鋭い爪で物を傷つけるなど周囲に迷惑をかけていることもあります。

猫の健康と安全を守るのは、飼い主として猫に対する責任です。さらに、周辺環境に配慮するのは社会に対する責任です。猫は生活するのに、それほど広い場所を必要とせず、上下に運動ができれば屋内でも暮らせます。

また、どこで保護されても飼い主が分かるよう、常に首輪や身元を示す迷子札をつけましょう。



育てられないなら増やさない

繁殖を希望しない場合は、不妊去勢手術をすることで病気の予防やストレスの軽減になり、繁殖のための争いや逸走(脱走)を軽減でき、寿命が延びる、常に精神的に安定した生活を送れるなどの効果が期待できます。

かわいそうな命を作らないためにも、実施しましょう。



じょうりんちゃん
©城陽市

犬を飼っている皆さんへ!



・散歩中や遊びの最中は、必ずつないでおきましょう

犬が怖い人や苦手な人もいます。散歩中などは、飼い主はしっかりとリードを持ちましょう。交通事故、誤食などから犬を守ってあげることができるのも、飼い主です。

・ふんの後始末は飼い主が責任を持って行いましょう

飼育場所での始末はもちろん、散歩中のふんも袋に入れ持ち帰る等の始末を飼い主の手で行いましょう。

・犬の習性をよく理解して飼育しましょう

適度な運動、適切な食事管理を行いましょう。欲求不満や、外部からの刺激は犬にストレスを与えます。

よく観察し、ストレスからくる病気や、地面を掘る・物をかむ・過剰にほえる等の行動を予防しましょう。問題行動が、近所に迷惑をかけていないか気をつけましょう。